ホッケー日本リーグ奥出雲町で開催

地元「セルリオ島根」善戦

ホッケー日本リーグ島根シリーズが五月二十六日、二十七日の両日、三成公園ホッケー場で開催されました。

昨年に続き二回目のホームゲームとなったセルリオ島根は、即戦力となる新人・五人が加わり、チーム力が大きく向上しました。

島根シリーズでは地元サポーターの熱い声援を受け、山梨学院OCTOBER EAGLES（山梨県）、名古屋フラーテル（愛知県）と対戦しました。

▶サイドから果敢に攻撃するセルリオ島根

二十六日は、豊富な運動量を誇る山梨学院と対戦し、前半二十五分にセルリオ・FW元山貴光選手がペナルティコーナーからの混戦を押し込み先制。

中盤以降は、走力で優る山梨学院が再三、セルリオゴールに迫るものの、キャプテン渡部裕介選手を中心とした堅い守りで得点を許さず、一進一退の攻防が続きました。

しかし、終了間際にセットプレーから同点とされ、そのままタイムアップとなり惜しくも一対一の引き分けとなりました。

対戦した山梨学院には、地元横田高校出身の三澤孝康選手、岩田卓也選手が出場し、チームの要として活躍。試合終了後は、お互いの健闘を称え合い、和やかに歓談していました。

翌二十七日は、男子日本リーグで五年連続優勝し、本町出身の福代勇太選手が所属する名古屋フラーテルと対戦。開始早々から相手の早いパス回しと分厚い攻撃で八分と二十一分に相手に得点を許します。

▲熱い声援を送る地元サポーター

劣勢のセルリオも二十七分に、FW元山選手がゴールを決め一対二とし前半を終了。

後半も名古屋の多彩な攻撃をGK和久利裕一選手の好セーブで再三のピンチをしのぎ、終了間際にカウンターからペナルティコーナーのチャンスを得、押し込んだかに見えましたが判定はノーゴール。

日本代表を多数擁する強豪を相手に互角の展開に持ち込みましたがチャンスを生かせず、一対三で敗れ、地元最終戦を飾ることはできませんでした。

チームを率いる安部隆史監督は、「試合内容は悪くない。選手はよく走り、守ってくれた。悔やまれるのは得点チャンスできちんと決められなかったこと」とコメントがありました。

トップ選手から指導

キッズスクール開催

試合終了後、競技力向上と競技人口の底辺拡大を目的に「ホッケー・キッズスクール」が開催され、奥出雲町内の小中学生、約二百人が参加しました。

指導したのは、セルリオ島根をはじめ島根シリーズに参加した全チームの選手三十人です。

指導した選手からは、「プレーが早くなればなるほど基本が大切。体からボールが離れないようにし、ボールを押し出すようパスを出す」、「ホッケーは気持ちで変わる。練習のときから動きに意識を持つことが大切」など熱心に指導があり、国内トップリーグで活躍する選手たちの直接指導に、子供達は真剣に取り組んでいました。

今回指導を受けた子供達の中から、将来トップリーグで活躍する選手が輩出されることを期待します。

▲キッズスクールに参加した皆さん